

ペットを飼育している方へ

災害に備えて準備しましょう!

災害時、ペットとの同行避難は飼い主による自助が基本となります。また、ペット避難所は、屋根のある屋外スペースになります。ペット避難所では、原則キャリーバックやケージに入った状態での生活となります。

避難所で人もペットも互いにストレスなく過ごせるよう、日頃から次の備えをしておくようにしましょう。

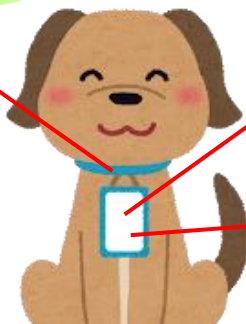


1. 飼い主の明示をしましょう

突然の災害ではペットと離れ離れになってしまうこともあります。動物が迷子になりどこかで保護されたとき、すぐに飼い主がわかるように、犬には必ず鑑札や狂犬病予防注射済票をつけましょう。誰が見てもすぐわかる連絡先を書いた迷子札をつけるようにしましょう。

犬の場合

首輪の装着

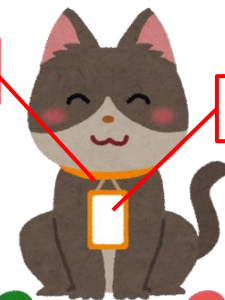


迷子札の装着

鑑札・注射済票の装着

猫の場合

首輪の装着



迷子札の装着

2. しつけをしましょう



突然の災害は人にも動物にも大きなストレスがかかります。慣れない避難所で周りの迷惑にならないよう、むやみに吠えない、キャリーバックやケージにならしておく、他人に友好的に接することができるなどのしつけを普段からしておきましょう。

犬の場合

- ・「待て」「お座り」「おいで」などの基本的なしつけ。
- ・吠えないように慣れさせておく。

猫の場合

- ・「人と触れ合える」ようにする。



3. 預け先を確保しましょう



災害により避難所でペットを受け入れできない状況も考えられます。いざという時のために、親戚、友人等ペットの預け先を探しておきましょう。特に大型であるペット、専用の飼育施設が必要なペットの場合は、避難所での受け入れが難しいため、預け先を確保しておきましょう。

4. ペットのための備蓄品を用意しましょう

ライフラインの寸断、緊急避難などに備え、最低3日以上ペット用携行品を備蓄しておきましょう。

準備する携行品の例

- ペットを入れるキャリーバック、ケージ（必須）
- フード、水、薬（3日以上）
- ペット用品（予備の首輪、リード、ガムテープ等）
- ペットの記録（ワクチン接種状況、健康状態、かかりつけの動物病院）など
- 飼い主の連絡先、動物の写真



5. 健康管理をしましょう



ダニ・ノミの駆除を定期的に行うようにしましょう。また、犬は狂犬病予防注射等各種ワクチンの接種しておくようにしましょう。



災害が発生した際ペットの同行避難は、飼い主による自助が基本となります。災害時に行われる行政機関による支援（公助）では、人の救護が優先であることから、災害の発生当初には、ペットフードや水などの支援ですら困難です。こうした場合にあって、飼い主はペットの安全と健康を守り、他人に迷惑をかけることなく、ペットを適正に飼養管理していく義務があります。したがって普段から、災害時に必要となる備えをし、地域社会に受け入れられるように、ペットを適正に飼養管理すること、また、災害発生時にはペットと安全な場所へ避難することがペットを守るための第一歩です。